広告　企画・制作/大毎広告株式会社

からだや心の辛さを和らげるために
――緩和ケア・ホスピス

人生の終末期に、どのような医療やケアを受けるのか。高齢者医療をめぐって、「治す」医療から「治し支える」医療へと変わり、緩和ケア・ホスピスの充実が求められています。京都府で初めて認可されたホスピス病棟を設け、終末期医療に積極的に取り組んでいる総合病院日本バプテスト病院（京都市左京区）の尼川龍一・理事長兼院長に緩和ケアとホスピスの現状と課題についてお聞きしました。（池田知隆）

尼川　龍一（あまかわ・りゅういち）

1957年大阪府生まれ。京都大学医学部卒業。静岡市立静岡病院、京都大学医学部附属病院第一内科、天理よろづ相談所病院、関西医科大学第一内科准教授、関西医科大学附属井病院教授などを経て2015年９月に日本バプテスト病院長に就任。内科、血液学。

一般財団法人日本バプテスト連盟医療団
総合病院日本バプテスト病院　認可病床数167床。ホスピス病床20床
〒606-8273京都市左京区北白川山ノ元町47番地

―ホスピス設立のきっかけは。

当院は、イエスキリストの隣人愛に基づく「全人医療」の理念を掲げ、周産期医療から終末期医療まで、いわゆる人の「誕生」から「死」にかかわる、地域に根差した病院です。そのこともあって1995年に京都府で初となるＮＩＣＵ（新生児集中治療室）とホスピスを開設しました。

２０１０年以降、京都のホスピス緩和ケア病棟は増え、現在16施設あります。その多くが京都市内にあり、京都市外ではまだ十分とはいえません。

―バプテスト病院の緩和ケアの特徴は。

がんと診断されたときや、治療終了後のがん末期の状態のとき、身体的な苦痛だけではなく、心の痛み、社会的な心配事やさまざまな精神的な苦痛が生じます。当院ではそんな患者さんとご家族に寄り添い、医師、看護師だけではなく、薬剤師、ＭＳＷ（医療ソーシャルワーカー）、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、栄養士、チャプレン（常駐の牧師）、音楽療法士、ボランティアなどからなるチームで支援しています。

さらに当院は、オーストラリアで提唱された「ホスピストライアングル」を実践しています。

―その「ホスピストライアングル」とは。

「ホスピストライアングル」は、患者さんが望むところで緩和ケアを受けられるように、治療病棟、ホスピス病棟、在宅の3カ所が密な連携を取り、切れ目のない円滑な緩和ケアを提供するシステムです。当院はこのシステムを導入し、患者さんを支える医療従事者（医師、看護師、相談員など）が、患者さんの病期、患者さんの揺れる思いに耳を傾け、患者さんが望む医療や療養環境をできるだけ提供できるように努めています。

在宅医療に関しては、当院は地域の在宅緩和ケア医とタッグを組んでいます。また、当院のホスピス医も訪問診療にかかわり、緊急入院や早急な退院、ご家族の介護疲れのためのレスパイト（休息）入院などにも対応しています。一方、患者さんが最期まで自宅で過ごすことを希望し、在宅療養を行っている場合でも、病院に入院できるという選択肢があること、担当医が入院後も関わることができることで患者さんやご家族には安心感がもたらされています。

一方、「ホスピストライアングル」が円滑に機能するためには、ケアを提供する医療従事者の”意識“も重要となります。とくに、医療従事者が在宅医療についての知識や技術がないと、患者さんが望む在宅ホスピスケアの提供は困難です。したがって、意識改革やスキル向上など緩和ケアを担う医療従事者の教育が必要になります。

―近年、患者さんをめぐる変化はありますか。

がん治療をめぐる画期的な新薬の登場やゲノム医療などによって終末期まで治療が継続されることが多くなってきたため、治療中止後に短期間で看取りとなるケースが増えています。

さらに急性緩和治療のためのホスピス入院が増加していることもあり、ホスピス入院期間は短縮傾向にあります。また、包括的診療制度の改正による在院日数の短縮の動き、準備不足での在宅復帰、在宅緩和ケア体制の未整備、老々介護や独居問題など解決すべき課題は山積みです。

―具体的なケアの内容は。

がん患者さんの苦痛は、痛みや呼吸苦などの身体的苦痛だけではなく、不安感や社会的な心配事さらにはスピリチュアルペインなども含む全人的苦痛（トータルペイン）と捉える必要があります。心の痛みは体の苦痛を増強させ、薬物だけで和らげることができないこともあります。身体的な痛みや呼吸苦に対してはマッサージやリハビリテーションが効果を示すこともありますが、医療従事者が患者さんに寄り添い傾聴することにより、患者さんの辛さを理解すること、そして共感することがなによりも大切です。

病状が悪化するなかで音楽を楽しみにされる患者さんも少なくありません。当院では20年以上前から音楽療法を行い、音楽を通して人生を振り返り、患者さんとご家族がいっしょに音楽を楽しんでもらえる音楽会を開いています。音楽会に参加できない重症患者さんに対しては専任の音楽療法士が病室を訪問し音楽を提供しています。

また、病院という非日常的な緊張感のある場では、自然や季節、人との触れ合い、社会の風をもたらしてくれるボランティアの存在が欠かせません。当院ホスピスの大きな特徴は、チャプレンと多くのボランティアが傾聴、ティーサービス、音楽演奏、アロマセラピー、生け花など多彩な活動をしていることです。

―緩和ケアへの全般的な理解は深まっていますか。

緩和ケア施設が増えるとともに、医師や看護師による緩和ケア研修も広まっています。それに伴い、がん患者さんにとって緩和ケアを知る機会が増え、相談窓口にもアクセスしやすくなっています。しかしながら、「緩和ケア」「ホスピス」を「最期の医療」というネガティブなものとしてとらえる患者さんもおられます。したがって、がん治療中などの早期の段階で緩和ケアについて丁寧に説明することが必要です。

一方、治療医が緩和ケア医につなぐタイミングが遅い場合があるため、治療医への緩和ケアの啓蒙も大切です。

―費用負担をめぐる課題は。

近年、生活困窮者が増えており、各病院には患者さんの経済問題に対応するためにＭＳＷが配置されています。当院でも、通院患者さんのみならず、当院に紹介予定の患者さんについても、医療費負担、生活保護受給、高額医療費申請、ホスピスの無料部屋提供などきまざまな相談に対応しています。

―地域における緩和ケア体制は進んでいますか。

京都市では現在、市内をほぼ網羅する形で緩和ケア病棟が林立しているため、おおむね患者さんはご自身が住む地域の緩和ケア病棟に入院することができるようになりました。しかし、満床のために地元の緩和ケア病棟に入ることができないこともあり、その場合は他の医療機関と連携をとり、円滑に入院できるようにしなければなりません。

２０１７年には京都府内の全ホスピス緩和ケア病棟が所属する「京都ホスピス緩和ケア病棟連絡会」が設立されました。3カ月ごとに会合をもち、各施設の困りごとなどを相談することができ、連携も強化されています。またコロナ禍がきっかけとなり、がん治療病院とホスピス緩和ケア病棟施設間で定期的に話し合う場も持たれるようになりました。

また、ホスピス緩和ケア病棟施設と、専門的な緩和ケア医・看護師がいない病院や地域の訪問診療医との円滑な連携、そして気軽に相談できる関係をつくっていくことも必要です。

このように、各医療機関の間で「信頼できる関係」を構築することにより、地域における緩和ケア体制を充実させることが出来ると思います。

―高齢社会に向けて緩和ケアの普及、充実に関する助言を。

いま、日本人の二人に一人ががんに罹患する時代です。がん治療の進歩によって、がんと共存しながら長く生きる患者さんも増えています。したがって、がんになっても、住み慣れた地域で、患者さん一人一人の生き方を支援できるよう、施設を越え、地域全体で患者さんとご家族を支える緩和ケアシステムをつくることが大切です。

これに関連して、「アドバンス・ケア・プランニング（ＡＣＰ）・人生会議」の普及もこれからの時代に重要になってきます。患者さんそれぞれの人生観や価値観、希望に沿った医療・ケアを実現するために、患者さんおよびご家族と医療・ケアチームがいっしょになって繰り返し話し合うことが大切です。最近では、健康なときからＡＣＰ・人生会議を始めるのが良いとする意見もあります。しかし、「今は忙しい」「将来のこと、良くない病気のことは考えたくない」との心理から、”健康なうちから将来病気になった場合に望む医療や療養について“考えることを避けることが少なくありません。今後は、地域毎で、市民へのＡＣＰ・人生会議の普及啓発が必要になってくると思います。

独立行政法人国立病院機構

京都医療センター 緩和ケア科

京都医療センター 緩和ケア科　京都市伏見区深草向畑町1-1

京都医療センターは、高度急性期総合医療施設として三次救命救急センターをそなえ、地域災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院に指定されており「この街の医療をささえる」をスローガンに地域に根付いた病院として京都伏見の地で医療活動を行なっています。地域のがん医療における中心的役割をはたせるよう平成23年1月に京都ではまだ少なかった緩和ケア病棟を開設するなど、がん診療体制の充実を図ってまいりました。

がん患者さんが抱える体の症状、心のつらさ、生活の困りごとなど様々な苦痛をやわらげる緩和ケアはがん医療の大事な一部分です。当院では、緩和ケア病棟でのより専門的な緩和ケアや療養に専念される患者さんに対するケア以外に、外来通院時、治療入院時でも主治医や多職種で構成された緩和ケアチームがサポートする体制を整え、病気のどのような段階であっても切れ目のないケアの提供に取り組んでいます。また幅広い診療科があり症状緩和のための手術や放射線治療ができるのも強みで、歯科と連携して口腔ケアにも力を入れています。

緩和ケア病棟では、患者さんの気持ちや生活スタイルに寄り添ったケアに努めており、音楽療法やアロマセラピーを取り入れているのも特長です。また、他院でがん治療をされていた方でも当院の緩和ケア病棟をご利用いただけます。緩和ケア病棟は一度入院したら退院できない場ではなく、症状が強い時期に緩和治療を行い、自宅への退院をスムーズに行うなど、地域や在宅の医療機関と連携を図りながら、これからも緩和ケアを必要とされる患者さんとご家族に寄り添ったケアを届けられるよう取り組んでまいります。

大阪赤十字病院

大阪府大阪市天王寺区筆ケ崎町5−30

大阪赤十字病院は、明治 42年（1909 年）日本赤十字社の大阪府支部病院としての開院以来100 年以上にわたり、地域の中核病院として長い歴史と伝統の基に発展してきました。人道・博愛の赤十字精神に基づいた「心のかよう高度の医療」をご提供するために、質の高い医療とサービスを目指し、最新の設備と機能を備えた診療体制を整えています。高度急性期病院としての責務を果たすべく国指定「地域がん診療連携拠点病院」として、各診療科が高度ながん診療を提供する一方、がんと診断された時からのあらゆる場面での緩和ケアにも力を入れています。腫瘍内科、歯科口腔外科、精神神経科、緩和ケア科なども備え、がん治療に関連した症状に対応し、長く安心して治療を受けていただける体制を整えています。加えてがん患者さんとご家族が身体や心のつらさを和らげ、その人らしく穏やかな毎日を過ごすことができる緩和ケア病棟を有しています。病棟における症状緩和においても各科からの専門的な診療・助言等の協力が得られる体制をとり、医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士・臨床心理士・管理栄養士など多職種のスタッフも連携しながら患者さんやご家族をサポートします。

すべては患者さんの笑顔のために　All for the patient’s smile

宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション

淀川キリスト教病院

大阪市東淀川区柴島1丁目7番50号

当院の緩和ケアは1984 年、関西で初めてとなるホスピス病棟の開設、2012年のホスピス・こどもホスピス病院開設、2017 年の本院統合を経ながら、わが国の専門的緩和ケアをリードしてまいりました。

ホスピス・緩和ケア病棟
予後が厳しく在宅療養が難しいがん患者さん、あるいは苦痛を和らげた後に自宅で過ごすことを希望されるがん患者さんの入院をお引き受けしています。緩和ケアチームはがん、非がんを問わず、一般診療科医師や病棟スタッフと共に症状緩和を行い、当院緩和ケア病棟やその他の療養先について、ご希望に沿えるような相談も受けています。また、大阪府がすすめるがん診療に関する研修会の企画・開催に協力し、緩和ケアの普及啓発にも取り組んでいます。

こどもホスピス病棟
当院のこどもホスピスは、“ 第二の家 ” がコンセプト。小児がんや難病のお子さんをご家族の休息のために一時的に預かるレスパイトがメインです。医師や看護師をはじめとした多職種が連携し、癒やしや安らぎを感じながら過ごせるように支援しています。ご家族で一緒に過ごせる個室や、遊びや勉強ができる部屋、あかりに癒やされる部屋などを備えています。また、臨床パストラル・カウンセラーが在籍しており、お子さんやご家族の魂の痛みに寄り添っています。

当院では、長年のホスピスケアと多職種チームで取り組む全人医療の実践で得られた知識と技術により、最期まで患者さんらしく過ごしていただくための診療を行っております。

京都桂病院

京都府京都市西京区山田平尾町17

京都桂病院の緩和ケア病棟（ホスピス）には4つの特徴があります。

1. **質の高い症状緩和**：緩和ケア科や精神科の専門医、看護師、薬剤師、理学療法士やソーシャルワーカーなどさまざまなスタッフが協力し、手を尽くして症状緩和にあたります。放射線や内視鏡、神経ブロック治療も実施できます。気持ちのつらさを支える仏教のお坊さんや、病棟で小さな音楽会や茶会を行う音楽療法士や裏千家の茶道の先生も、わたしたちの病棟を手伝ってくれています。
2. **融通無碍（ゆうずうむげ）**：病状にともない刻々と変化する患者さんやご家族の気持ちをいちばん大切にします。治療の方針、療養の場所などについて、気持ちや考えが変わることや迷うことは、むしろ自然なことです。わたしたちがそれに合わせお支えします。
3. **地域との連携**：入院したら最期まで病院で過ごさなければならないわけでは決してありません。患者さんやご家族の気持ちに応じて、病院で過ごすことが安心なときはすみやかに入院できるように、調子が落ち着いて家で過ごしたいときは自宅に戻れるように、地域の診療所の医師や看護師とも密に連携しています。
4. **コロナ禍でもできるだけ普段どおりに**：新型コロナウイルス感染症への対策を十分にはかりつつ、できる限りご家族やご友人が患者さんに面会したり付き添ったりできるよう工夫しています。

京都桂病院の緩和ケア病棟での療養を希望される方は、現在おかかりの病院の主治医の先生にお申し出ください。

三菱京都病院

京都市西京区桂御所町１番地

阪急桂駅の近くにある当院の特徴は、患者さんだけでなくご家族も親切にケアすること、患者さんの苦痛を和らげるための治療を積極的におこなうこと、お元気にして退院をめざすことです。

当院の緩和ケア病棟・緩和ケア内科では、ご家族のケアも積極的におこないます。患者さんと同様にご家族も不安やつらさを抱えておられますから、スタッフはご家族に積極的に声をかけ、気持ちを伺い、疑問にお答えし、課題を一緒に考えます。病室は患者さんやご家族が過ごしやすく居心地のいい空間になるようにしています。

症状を和らげるための緩和ケアにはさまざまな方法があります。痛みをとるために飲み薬や貼り薬、注射薬を使ったり、放射線を当てたり、体に溜まった水を抜いたり、呼吸を補助するために酸素を使ったり、点滴をしたりします。病状によって最適な治療は変化しますから専門的に判断をして治療手段を選びます。緩和ケア病棟は何も治療をしないところではありません。

私達は可能な限り退院をめざします。ほとんどの患者さんは症状に困って入院を余儀なくされます。しかし病状によっては治療により症状が改善し、体力が回復することがあります。症状の改善と並行して自宅療養できるよう介護の準備を整え退院できるようにします。

当院の緩和ケアを担当する医師は、抗がん剤治療もおこなっています。がん医療に精通していますので、がんの初期から進行期まで、外来通院も入院治療にも対応します。

独立行政法人国立病院機構

大阪南医療センター緩和ケア内科

大阪府河内長野市木戸東町2−1

当院は大阪府南河内医療圏の河内長野市にある 384 床の病院であり、診療科数も 32 と幅広い疾患に対応しております。特に高度ながん治療やリウマチ等免疫疾患治療、救急医療体制を備えた脳・循環器疾患治療等の高度急性期医療を中心に提供しております。その中で、地域がん診療連携拠点病院として、地域の医療機関や患者様のニーズに少しでも応えることが出来るよう、緩和ケア病棟を 2023 年３月より開設しました。南河内地域のがん治療及び緩和ケアの基幹施設として、診断から治療、そして緩和ケアに至るまで、地域の皆様方に広く提供しております。

緩和ケア内科は、病気の治癒を目的とした治療ではなく、病気があっても穏やかに過ごせるように、症状緩和など苦痛をできるだけ和らげる治療を専門としています。外来診療においては、手術治療、抗がん剤などの薬物治療、放射線治療など、病気の治療を受ける過程での様々な苦痛を和らげるお手伝いをいたします。入院診療（緩和ケア病棟）においては、多職種からなるチームにより、人生の大切な時期にその人らしい生活を送れるように専門的緩和ケアを提供しています。患者様ご本人だけでなくご家族にも穏やかに過ごしていただけるようにサポートいたします。当院に通院中の患者様だけでなく、近隣の病院や地域の先生方からご紹介いただいた患者様も対象としております。

公益社団法人京都保健会

京都民医連中央病院

京都府京都市右京区太秦土本町2番1

医学の進歩とともに、今ではがんの治療にもいくつもの選択肢ができました。でも、残念ながら、今でもすべてのがんが「治る」わけではありません。がんと診断されてから選ぶ道は、ひとつではありません。その一つに緩和ケアという選択肢があります。緩和ケアは、がんの治療か緩和か、という相反するものではなく、今では、「がんと診断されたときから行うケア」と考えられています。決して、緩和ケア＝終末期ケアではありません。

多くの方は、ご自身ががんと診断されたときに、初めて「命には限りがある」ということに気づかれるようです。生きる時間に限りがあると知ったときには、気分が落ち込み、頭が真っ白になり、「酒もタバコもやらへんのに何でわしががんになるんや」と怒りすら湧いてくるかもしれません。そして、「治療をしながら今の仕事を続けられるのだろうか」、「家のローンが残っているのに治療費で家計はいっそう苦しくなりそう」、「子どもたちにはがんのことを話した方がいいのかしら」といった悩みが次々に湧いてくるかもしれません。こうしたさまざまな不安を解消することも広い意味での緩和ケアなのです。

こうした悩みをひとりでかかえずに、当院の「ちいき総合サポートセンター」で、がん治療や緩和ケアの相談をしてみてください。これから先の人生をどう生きていきたいのかということは、人まかせにせずに、どうかご自身で決めてください。

私たちは、みなさんの思いがかなうように支えていきたいと願っています。